

マクロ政策、為替レートと都市農村間の労働移動
 —ニューケインジアン・モデルとハリス・トダローモデルの融合による開発マクロモデル
 の一例—

要約

静岡県立大学 飯野光浩

現在の世界経済を考えると、新興国はその重要性を増しているが、新興途上国は先進国と経済構造の面で決定的に異なっている。それは、経済に占める農業部門の大きさの違いである。新興途上国の重要性が世界経済で増している現在、これらの国々を分析することや新興途上国と先進国間のマクロ経済相互依存関係を分析することの必要性は高い。

以上のような状況を踏まえて、新興国でマクロ経済政策が従来の工業部門のみならず、農業部門や都市失業等に及ぼす影響を分析することも重要である。具体的には、Obstfeld and Rogoff (1995)よりも単純な構造を有しており、対数線形化することなく均衡解を明示的に解くことのできる Corsetti and Pesenti(2001)のモデルに農業部門を導入する。さらに農村と都市間の労働移動は Harris and Todaro(1970)のモデルを導入する。この開発マクロモデルを用いて、マクロ経済政策の効果を分析した。その結果をまとめたのが、下の表である。

	金融緩和策			拡大的財政政策			
	自国	外国		自国		外国	
名目為替レート	+	-		農業品支出	工業品支出	農業品支出	工業品支出
自国物価水準	+	-	名目為替レート	0	0	0	0
外国物価水準	-	+	自国物価水準	+	+	+	+
自国農業産出量		0	0	外国物価水準	+	+	+
自国工業産出量	+	±	自国農業産出量	+	-	0	0
外国農業産出量		0	0	自国工業産出量	±	+	±
外国工業産出量	±	+	外国農業産出量	0	0	+	-
自国都市失業比率	-	±	外国工業産出量	±	±	±	+
外国都市失業比率	±	-	自国都市失業比率	-	-	±	±
交易条件	-	+	外国都市失業比率	±	±	-	-
			交易条件	+	+	-	-

JEL Words; O11, E12, R23